

淡路景観園芸学校 SDGs 通信

チーム発足！

開校から21年が経過した淡路景観園芸学校。全国から淡路島に集まった教員、学生が淡路島の地域に密着し、自然と共生する持続可能な社会の構築に向けて様々な取り組みを進めてきました。さらに、2019年からはSDGsの達成に向けて取り組みを開始。SDGs推進チームを結成し、脱プラスチックや学校内の食品残渣のリサイクルなど身近な生活に関わることから、少子高齢化が進む淡路島の活性化など、様々な活動が動き出しています。それでは、SDGs推進チームの活動を学生、教員がご紹介します。



SDGs推進

● いまさら聞きづらいけど、SDGsって何ですか？

SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに世界が達成すべき国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。（出典：外務省 HP）私達の身近な場所でも、円形のSDGs 17色のバッチャやSDGsに取り組む企業のPRを目にする機会が増えてきました。



持続可能な世界を実現するための17のゴール



ヤギを迎え入れる準備

学内にあった廃材を利用して小屋をつくりました。断熱材のスタイロフォームを内側に貼り付けたり、イノシシ対策の電気柵も設置したりと、準備を整えました。



草の食べ方・ヤギ除草の効果

柔らかい草の上部だけを食べていました。今のところ、土壌流出は起きていません。この草原には毎年スズムシが生息していますが、生育に影響は無さそうです。秋に確認したいと思います。また、ヤギを繋いでいる杭を中心に、きれいな円状に除草され効果を確認しました。

ヤギがきた！

待ちに待ったヤギの到着でした。しかし、準備していた首輪が大きく、いきなり脱走…。追いかけた先は池でした。飛び込んで、腰を抜かして動けなくなったところを何とか捕獲しました。逃げないように二重の安全対策が必要と痛感しました。

ヤギ当番の日常

- 9:00 小屋から出して繋ぐ
糞を掃除し、電気柵の電源を切る
飼料をあげ、水を交換する
- 12:00 元気にしているか見回り
- 17:00 小屋に戻し、電気柵の電源を入れる

SDGs研修開催！〜SDGsカードゲーム〜

SDGsを楽しく学べる「SDGsカードゲーム」を使った研修を開催しました。講師は、一般社団法人インバウンドダイバシー協会の今田大輔さんです。



ロールプレイング型のカードゲームで、参加者同士が協力や交渉をしながら、ゲームのなかで持続可能な社会の構築を目指していきます。ゲームの中で、私はゴール達成に必死になるばかりに、自然環境や社会状況などお構いなしになっている自分にはと気づかされました。現実の社会でも、環境や児童労働や貧富の格差などの社会問題にきちんと意識を向けないと、経済性を追求するあまり同じ過ちを繰り返しているのかもしれない。この研修を通じてSDGsを自分ごととして捉える第一歩となりました。

【インストラクター 守 宏美】

脱プラスチック

マイボトル給水装置設置します

プラスチック削減の一步として、ペットボトル飲料の購入をやめて、マイボトルを持ち歩きませんか？でも、水を持ち歩くのは重たい。水道水を直接飲むのは抵抗がある。そのような声にこたえて、7月から講義棟ホールに新たな給水装置を設置します。水道水を3つのフィルターを通してろ過した浄水を提供しますのでマイボトル持参でご利用ください。



堆肥を作成

生ゴミの堆肥化でごみの循環利用を目指す



発酵を助ける微生物を採取

調理くずや残飯等の「生ゴミ」。燃えるゴミとして回収されるまで、「臭い」、「汁が出る」、「虫が寄ってくる」など一刻も早く目の前から消えてほしい厄介者です。実は、ひと手間かける事で生ゴミを無くする方法があるんです。

レジデンス（学生寮）の生ゴミを微生物の力で堆肥に変える取り組みを始めました。3月下旬、土部員数名でコンパネを切り、防腐塗装、ねじ止めをして、ワイ

ワイと堆肥枠を作成。枠というカタチがあると、生ゴミを集める場所が分かりやすく、中身が見えず小さいです。また自然素材の木枠なので、土中の微生物が活躍する適度な湿度を保つというメリットもあります。枠の底を少し持ち上げた隙間で通気性も確保し、堆肥づくりに最適な環境にしました。生ゴミだけ放り込んでもスムーズに堆肥化できないので、主役の微生物を呼び込みます。学内のウバメガシの林床から、菌糸がよく発達した腐葉土を採取し、完熟牛糞堆肥と混ぜ合わせて土壌微生物たっぷりの発酵床を作り、ゴミと一緒に投入できるようにしました。循環型社会の実現は身近な実践から。まずはレジデンスの生ゴミ発生ゼロに。堆肥づくりのテクニックを磨きつつ、堆肥の循環利用にチャレンジ！【インストラクター 三木 直樹】

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限されるそんな中でも、今できることを進めようとの通信を作成しました。園芸学校がSDGs達成に向けて、ローカルに、グローバルに、どんなことができるのか模索しながら活動しています。この活動に興味を持った方と取り組みを広げていけたら幸いです。

編集 淡路景観園芸学校 SDGs 推進チーム
林まゆみ 澤田佳宏 三木直樹 守宏美
菅井暁乃 橘川流 谷河澤 堀内修平
デザイン 光成麻美
発行元 656-1726 兵庫県淡路市野島常盤 954-2
兵庫県立淡路景観園芸学校
TEL : 0799-82-3131 FAX : 0799-82-3124



日本ミツバチ養蜂から考えるSDGs

日本ミツバチ養蜂を通じて、淡路景観園芸学校の環境をモニタリングしています。養蜂を始める前に二ホンミツバチ養蜂家である森本さんにインタビューをしました。

「やっぱり自然には勝てないですよ」と語る森本さん。森本さんは長年、淡路島で二ホンミツバチの養蜂をしています。昨年(2019年)、アカリンダニが大発生して淡路島の二ホンミツバチが激減してしまい、ほとんど蜂蜜も採れませんでした。今年もどうなるのかわかりません。長年、養蜂をしてきてこんなことはなかったそうです。温暖化による気温の上昇が原因ではないかと語っていました。

ハチの巣箱は300個ほど設置していて、設置してからは基本的に管理をしません。管理をしないとスムシ(ハチノスツリガ)が発生しやすくなるそうですが、それも自然なので手を出しません。スムシは巣を食べて成長する蛾です。スムシに巣を食べられる被害が大きくなるとミツバチは巣から逃げ出してしまいます。森本さんの養蜂は、自然に任せてなるべく手を出さない主義で、言葉だけでなくやり方からヒトと自然の共生を感じました。【研究科11期生 堀内修平】



養蜂の巣箱をキャンパスの各地に設置



巣箱製作



ミツバチの巣を溶かして蜜ろうを精製



淡路市小田地区の里の草原で「火入れ」を実施

里地の半自然草原(草刈りや火入れによって持続する草原)は草原生物のハビタット(生息場所)として重要な生態系ですが、近年、各地の農村で、人口減少や高齢化のために十分な草刈りなどが行えなくなり、植生遷移の進行(藪化、樹林化)による半自然草原の劣化が生じています。淡路市小田地区でも同様で、これまで共同墓地の土手の草原を集落の共同作業の草刈りによって維持管理していましたが、集落の人口減少と高齢化から従来どおりの管理が難しくなってきました。

3月12日、学生5名と教員2名で小田地区の墓地へ出向き、2名の住民の方との協働で、火入れによる草原管理を行いました。当日は、晴天無風で火入れ日和。まず火入れ区画の外縁の草刈りをして防火帯を設け、その後、斜面上部から火をつけて、ゆっくりと全体を燃やしていきました。枯れ草や地表に堆積した落ち葉が焼失し、地表まで日がとどくようになりました。



ススキが火柱を上げて燃える様子は圧巻

火入れは草原の地下部への影響がないため、これから新たな草が芽生えてきます。火入れの2週間後、さっそく大量のワラビが芽吹いていました。おいしそうです。【准教授 澤田佳宏】



蕨のお浸し 柔らかくておいしかったです



火を入れる前に草を刈って防火帯を作る

朝ごはん食堂の運営支援

学校で栽培した野菜を提供しました

淡路市志筑地区では「ボランティアみらい」というグループが、毎月2回に主に小学校へ登校前の子供たちを対象にみんなで朝ご飯を食べる「朝ごはん食堂」という活動を行っています。この度縁があり、朝ごはん食堂へ第1回目の野菜の提供を行いました。学校の分区域では、一人ではなかなか食べきれないほどの野菜が収穫できることもあります。こうした野菜をこども食堂へ提供することで、学校で作った野菜を無駄なく活用出来るができます。また新鮮な野菜を通じて大学と地域をつなぐ新たなコミュニティの場にしていきたいです。

【研究科11期生 谷河澤】



ボランティアみらいの皆さん



手作り朝ごはん 野菜いっぱいのお味噌汁とおにぎり



園芸学校で採れたブロッコリーとキャベツ

子どもたち手作りの旗が目印



岩屋集落 小籠包の会

2月25日に岩屋商店街の中にあるコミュニティサロン「つながり」に中国からの留学生楊さんを中心としたSDGsメンバーで小籠包を作り、に何わせてもらいました。ここでは、地元の人々が作った野菜の朝市や気軽に立ち寄れるサロンが開催されていて、ボランティアの方で運営されています。岩屋は私達にとって一番身近な街の一つで、その中心にある岩屋商店街は昔ながらのお好み焼き屋さんや居酒屋などがあります。今回、小籠包を作りに行かせていただいたSDGsメンバーと地域の方々が交流し、協力し合い、小籠包を作ることができ素晴らしい日になりました。

【研究科11期生 橘川光】



地元の方と一緒に小籠包を包みました

